

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772402307
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホーム おだやか村野
訪問調査日	平成 19 年 8 月 13 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2772402307
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホーム おだやか村野
所在地	大阪府枚方市村野本町18-17 (電話) 072-805-0700

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年8月13日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(平成19年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	25 人	常勤	4人, 非常勤 21人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	4 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	19,200 円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(294,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,800 円			

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	64 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人松徳会 松谷病院 谷口クリニック たかはま歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の代表者が平成16年に高齢者介護に関わっていた親族の影響を受けてこの地に開設したホームである。現在、同法人は大阪府下で3箇所のグループホームを運営している。マンションの2階部分を改築して、互いに行き来が自由に出来る2ユニットの構造になっている。法人のグループホーム事業部長の重責を兼務する管理者とホーム長そして職員が一体となって入居者と家族に愛情をもってあかく接している感じが伺えるホームである。運営推進会議を活かした取組みや市町村との連携を積極的に行っている。今後とも地域に密着したサービスをいっそう追及して更なる信頼を得られることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の取組課題①ホームの中だけで過ごし勝ちにならない事②地域への働きかけの推進であった。これらの課題についてスタッフ会議等で職員に再確認をすると同時に家族に対しても評価結果をオープンにして現在も改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については職員に評価項目を説明して意見を求めて改善項目をまとめた点は評価できる。次回には、出来ている事、これから取り組みたい事などをさらに追求して改善に結びつける方向を出される事を期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市包括センター、地域代表、家族代表、利用者代表が出席して2ヶ月に1回の頻度で開催されている。ホームの現況や行事予定の説明や出席者からの意見を聞きホームの運営に役立てようという姿勢での取組が感じられる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告は確実にに行われて家族の満足度も高い。重度化への家族の不安解消にも文書にて情報共有を行っている。家族も参加する行事等の日に家族と懇談する時間を設けて家族との情報交流を深めるなどの取組を期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同じマンションの住民や近所の人に挨拶をしたり避難訓練予定を案内したり、少しずつ前進している。運営推進会議に自治会からの出席を得ているので更に地元とのつながりを強めたいと考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームおだやか村野の理念の3番目に「地域や家族の方と共存していくグループホームを目指します」という独自の事業所の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および全職員はグループホームが掲げる理念を理解して日常のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じマンションの住民をはじめ近隣の老人や子供たちとも交流をすることに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での指摘事項等についても再確認をして全職員で改善に努めている。評価結果を家族にも開示している。	○	自己評価については職員全員の意見を求める取組みが行われている。今後は、出来ている事これから取り組みたい事などを、さらに追求して改善に結びつける方向を出される事を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催されている。サービスの内容に関する意見交換も行われている事が議事録で確認出来た。今後も継続して頂きたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	枚方市の担当窓口や包括センター、社協とも情報交換や行き来が多く持たれている。独居の利用者もあるので相談等が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などを家族の訪問時や電話や手紙等でよく連絡することに努めている。家族も報告の現状について満足出来ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置したり、外部評価の時には家族アンケートの説明を丁寧にする等、家族の意見や要望を聞きだす努力をしている。	○	家族の意見要望を聞く努力はされているが、年に何回かの家族が参加する行事などの機会に家族との懇談をする時間を設けるなどして家族との情報交流をいっそう高める事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者やホーム長は職員の異動が利用者にも与える影響を理解して対応している。2ユニットの利用者と全職員がお互いに顔見知りの関係であるようになっている。職員も顔見知りの関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は機会を見つけて研修等に参加している。職員の休息する部屋を確保して健康管理やストレス軽減の面で管理者やホーム長は配慮を行っているのが解る。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターが中心となって市内のグループホーム間の交流がスタートした段階で、今後期待が出来るかと考える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人及び家族との信頼関係をしっかり築く事を大切にしている。時間を掛けて話し合いながら見学したり面接したりしている。そして不安を職員と一緒に乗り越える事を家族に話して行く。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「愛情をもって、あかるく、ゆっくり、やさしく」を合言葉として信頼関係を築きながらケアを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の暮らしやサービス利用経過を把握してなじみの暮らしの継続が出来る事、本人の意向が尊重される事を職員は心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は利用者の状態や出来る事、出来ないこと、本人の希望等が良く考慮された充実した計画書となっている。家族にも良く説明され、家族も内容に満足している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	チームカンファレンスを毎月行い担当者会議を開催して職員の意見報告を元に介護計画書の見直しの検討を行っている。職員間の申し送りの方法等も工夫されていて、情報共有もしっかり行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携の体制を活かして出来る限り利用者や家族の要望に応じて受診支援や入院退院の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、A、Bユニットに分けて契約医療機関による往診を受けているので結果的には毎週医師の来訪があるので緊急な対応が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への対応について指針を作成している。家族に文書にて説明して同意をもらおうと共に関係者で情報共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者や家族のプライバシーへの配慮についてはスタッフ会議や引継ぎの時に職員がお互いに注意し合うなど気をつけている。記録などの個人情報の扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日常の業務に流されないようにしている。一日の生活の流れは決めているがそれにこだわらずに、利用者の生活リズムを大切にするケアを徹底している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備には調理や味付けにも利用者が参加して行われていた。会話のある食事が行われている。食事の片付けも洗う係り、食器拭く人、棚へ片付ける人等それぞれ役割を持って参加していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ利用者の希望を優先して入浴できるように支援を行っている。職員は利用者の体調の管理や安全な入浴が出来るように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	普段の暮らしの中で掃除や調理、片付けや洗濯などの家事も出来る人は役割を持ってもらうようにしている。気晴らしのためにはゲームやカラオケなどの楽しみ事を行うように職員はいろいろと工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	新しく1階駐車場(屋根つき)側の入り口付近にベンチを設置して利用者の外出支援時に利用されている。前回の取り組み課題が改善されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員はスタッフ会議等を通して正しい理解に努めている。安全のために階段に通じる玄関は施錠しているが、利用者の外出傾向の場合は職員がさえぎることなく一緒に外へ出る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練ではマンションの住民にポスティングをして計画を知らせている。安全に避難する方法を習熟する為に繰り返し行わなければいけないと認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量は記録方法に工夫をしながら行われていた。体重の推移や個人の栄養バランスについてもデータ管理されて変化に気付く工夫がしてある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	マンションの2階部分を改築して2ユニットの設計をしているので、ある程度の間取りの厳しさはあるが、出来るだけ住み良い空間作り目指して、食卓の配置などを職員が工夫しているのが解る。2ユニットが自由に行き来できるのが利用者には開放感を与えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔に保たれていた。使い慣れた家具や大切な写真などを置いて利用者が落ち着いて過ごせるように職員が支援している様子が伺える。今夏の厳しい暑さでは居室の室温管理に特に注意がされていた。		